

新しい生活様式における民生委員児童委員活動に向けて

# News letter M I N S E I

Vol. 4 2022.4



相模原市大野中地区民児協 会長 堤道子さん

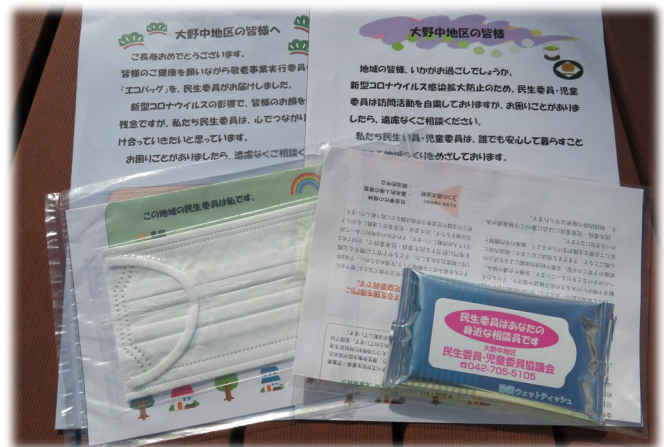


## 民生委員児童委員活動は “自分が楽しむこと”から!

### コロナ禍で模索し続ける民生委員活動

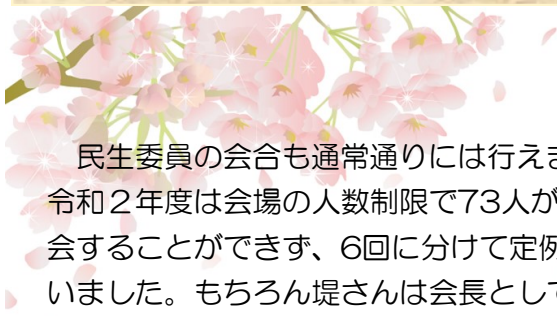
堤道子さんが会長を務める相模原市大野中地区民児協は22地区ある相模原市の中でもっとも住民の高齢化率が高く、民生委員児童委員（以降、「民生委員」）も73人と多いエリアです。コロナ禍により通常の民生委員活動ができず、令和2年度は高齢者を直接訪問することは避け、80歳以上の方へのお手紙とアルコールウェットティッシュ、マスクの配布を行いました。

令和3年度は民生委員活動の方法を少し変え、高齢者に対しては万全の感染症対策をしたうえで戸別訪問もOKとしましたが、高齢者からの反応もさまざま、来てほしいという人、来てほしくないという人、本人は来てほしくても家族が訪問を望まないというケースもあり、一人ひとりに配慮した対応をしました。



配布したお手紙とアルコールウェットティッシュ、マスク。訪問活動を自粛するなかでも心のこもったお手紙で地域みなさんとのつながりを絶やしません。





民生委員の会合も通常通りには行えません。令和2年度は会場の人数制限で73人が一堂に会することができず、6回に分けて定例会を行いました。もちろん堤さんは会長としてすべての会議に出席。同じことを話すので、何回目かには話す内容も覚えてしまったそうです。

### 得意なことを活かして無理のない活動を

堤さんが民生委員になったのは27年前。民生委員になる以前もダンスの講師をし、自身も絵を習うなど仕事や趣味で充実していたので最初は断っていましたが、地区社協の会長からも熱心に推薦され「月に1回、会議に出るくらいなら」と引き受けました。民生委員になって最初の15年くらいは仕事をしながら活動していたため、戸別訪問など最小限の活動だったそうですが、続けるうちに会計から副会長、そして6年前に会長となりました。

相模原市大野中地区民児協では、前回の一斉改選で20人以上の新任民生委員が委嘱され、30代で民生委員になった人もいます。堤さんは「一人ひとりの民生委員それぞれに得意なことがあるので、会長としてそれを活かせるよう心がけています」と言います。実際、新任民生委員でも計算が得意な方には会計の役割を担ってもらうなど、みんなの得意を持ち寄って、民児協運営を進めています。また、堤さん自身も仕事をしながら活動していた経験から「民生委員は『パイプ役』。無理のない範囲で活動してほしい」と伝えています。



「民児協運営はみんなで分担して進めることが大切」と穏やかな口調で語る堤さん。

### 「まずは自身が民生委員活動を楽しんで」

堤さんに民生委員を続ける秘訣を聞くと「自分の生きがいを見つけて民生委員活動とプライベートをコントロールしながらやっていくこと、ひとりで抱え込まず、みんなで協力して進めていくこと」と笑顔で答えてくれました。

次期一斉改選に向けて、民生委員の役割や活動内容を地域住民に理解してもらうには、「民生委員自身が活動を楽しむことが大事」と言います。「『大変』が先行してしまえば、民生委員のやりがい伝わらない。民生委員になって地域とのつながりもでき、生活が豊かになったことを伝えていきたい」と熱い想いを語ってくれました。



- \* 神奈川県社協 民生委員児童委員部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性やきめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県政令市の枠を越えて、交流、研修情報収集、意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。
- \* このニュースレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに「新しい生活様式」に向けた委員活動やコロナ禍における委員の思いを発信するために、不定期に発行します。



HP : [神奈川県社協民生委員児童委員部会](#)



ツイッター : @kanagawa\_syakyo



身近な地域で活動する民生委員児童委員のことを多くの方に知っていただけるよう、30秒のPR動画を作成しました。ぜひご覧ください。

